

## 環境連携三重の環事業

はじめに

20 世紀が「大量生産・大量消費・大量廃棄」の資源消費型社会であったことから、地球温暖化のような地球規模の問題から身近なごみ問題まで様々な問題が起こっています。

三重県ではこれまで資源循環型社会の構築を目指し、ごみの排出抑制、再使用、再生利用を推進してきました。これらの結果、飲料容器や紙類については、資源としての有効利用が進み、資源化率も向上しています。

しかし、ごみの排出量については、この 10 年余りほとんど同じレベルで推移しています。

真の資源循環型社会を構築するためには、これまでの「家庭、事業者はごみを出し、行政が処理する」といった枠組みを超えて県民、NPO、事業者、市町村、県など様々な主体が新しい連携、協働のもとに取り組む必要があります。

県では平成 15 年度から「環境連携三重の環事業」として様々な主体による新たな連携、協働の仕組み（地域循環ネットワーク）づくりを行ってきました、その中で実証事業として藤水地区環境を考える会、藤水地区連合自治会、株式会社魚国総本社三重支社、マックスパリュ中部株式会社、コマツ三重株式会社、津市役所、津市役所藤水支所とともに、三重県も一排出者としての立場から廃食油の循環的利用に取り組みました。本書はその事業内容を報告書として取りまとめたものです。本書が廃食油の循環的利用の手引きのみならず、多様な主体の協働による廃棄物の循環的利用についての手引きとなれば幸いです。

平成 17 年 3 月

三重県環境森林部 資源循環室

